

都市整備事業におけるベンチマーク手法の適用方策



都市研究部 都市施設研究室長 西野 仁

(キーワード) ベンチマーク、土地区画整理事業、評価

1. はじめに

我が国の都市整備事業においては、厳しい財政事情等からより効率的な執行が求められている一方、海外では、ニュー・パブリック・マネジメントの中核技術であるベンチマーク手法（行政施策の成果に関する数値基準（ベンチマーク指標）を設定して、目標の設定や実績の計測を行うことにより行政サービスの改善を図る手法）が導入され、効果を上げてきている。そこで、我が国の都市整備事業にベンチマーク手法を適用し、事業の効率的・効果的实施を支援する手法を検討することとした。

2. 研究内容と方法

（1）検討対象の設定

代表的な都市整備事業である土地区画整理事業において、既成市街地における実施のニーズが高まってきていることから、検討対象を既成市街地における土地区画整理事業とした。具体的には全国363地区を対象に、国土交通本省所有のデータの活用や地方自治体所有データの収集により分析を行った。

（2）ベンチマーク指標の検討

手法の適用場面として、事前・事後評価、進捗管理の2つの場面を想定した。いずれの場面でも、他地区や、全国における平均的な傾向との客観的な比較が出来る指標を検討した。

事前・事後評価における指標は、総事業費、総事業期間を対象とした。これらについて、各地区の事業の難しさを表す難易度を設定し、難易度から総事業費、総事業期間についての全国における平均的な傾向を数値として算出できる直線をベン

チマーク指標として提案した。図1は、総事業費におけるベンチマーク指標の例であり、要移転戸数が難易度、直線がベンチマーク指標を示している。

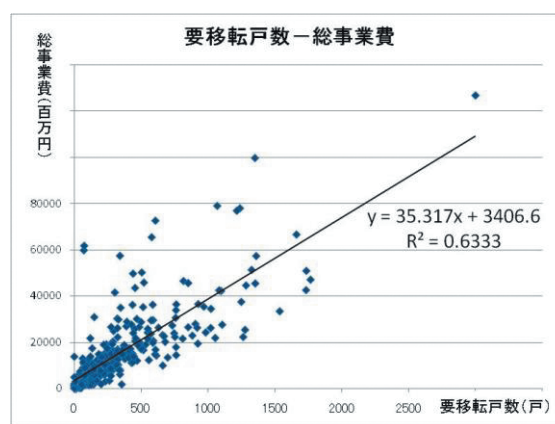


図1 総事業費のベンチマーク指標

進捗管理におけるベンチマーク指標は、ある時点での進捗状況が、全国他地区との比較で進んでいるかどうかを評価するものであり、事業への合意形成の度合いを表す「同意率」や工事等の進捗を表す「移転戸数率」等を提案した。

また、上記指標を用いて、各地区の施行者等が自己評価できるチェックシートの開発も行った。

（3）成功要因・ノウハウの抽出・整理

具体的地区へのヒアリング調査等により、成功事例の要因とノウハウの抽出、ベンチマーク指標による評価結果との関係の分析を行い、成功要因・ノウハウ集（案）としてとりまとめた。

3. 研究成果

上記の研究調査結果を、ベンチマーク手法運用指針（案）としてとりまとめた。今後、必要な改良や国土交通本省との協議を行った上で地方自治体等に配布したいと考えている。